

徳山高専

地域に役立つ システム次々に 40人が創造演習の成果発表

徳山高専(平野千博校長)情報電子工学科の創造演習発表会が十九日開かれ、四年生四十人が十グループに分れて半年かけて開発した実用的なコンピュータシステムを発表した。

地域の問題を解決するシステムが課題で、井上茂樹君ら四人は認知症で

はいかいの心配がある人に、現在の地の情報を発信するタグをつけ、介護施設などで違う部屋に入るとパソコンに警告が出る行動把握システム▽大村恵未さんら三人は七色のキーボードカバー

をかけたパソコンで子どもでも簡単に世界の国旗当てクイズが楽しめるソフトを作った。

鈴尾大地君ら四人の「うさぎ防衛軍」は幼稚園の要望からで、夜間、野犬や不審者がウサギ小屋に近づくと、カメラの画像の面積の変化で異変を感じし、写真や動画を記録してパソコンにメールで自動的に送る。鈴尾君(19)は「実用性にこだわりました。このアイデアを卒業演習にも生かしたい」と話していた。



発表する鈴尾君のグループ